

風車、複雑な地形に適応



【長崎】日立製作所や九州大学などは、日本の複雑な地形に適した新しい風力発電用風車の共同研究に着手する。鹿児島県で稼働中の風力発電所を使い、九大が購入したスーパーコンピュータで、上昇気流などが起こす風の乱れが風車の強度に与える影響を解析する。風力発電機で国内最大手の日立は乱流に強く、安全な風車の開発に活用する。

研究には日立と九大のほか、九州電力と九電工のそれぞれのグループ企業が参加。日立が鹿児島県に設置し、九電工子会社の九電工新エネルギー(福岡市)が運営する出力2000キロワットの串木野れいめい風力発電所の1基を対象に10月中にも開始する予定。

串木野れいめい発電所の1基を対象に研究する(鹿児島県いちき串木野市)

日立や九大、スパコン解析

研究には日立と九大のほか、九州電力と九電工のそれぞれのグループ企業が参加。日立が鹿児島県に設置し、九電工子会社の九電工新エネルギー(福岡市)が運営する出力2000キロワットの串木野れいめい風力発電所の1基を対象に10月中にも開始する予定。